十二編下

外題 曲亭馬琴
十二編上

其儘
鄙の
弁題曲亭主人
昇文庫
十二編上

蹴鞠の段い上若菜の眼目なるべし先譚ゆい鎌倉幕府の手毬の會と思寄稚氣ふ書綴しをなひさ再同案の著述をすべしと折柴昔ゆ鞠興い當代の追羽根と呼ふ物ゆ似るゆうゆ思ひ今般い此と腹稿もちと既ゆ傾城水滸傳ふ宋徽宗の毬を後鳥羽天皇の蹴衛羽根ゆ代ゆうゆれい復用人も事舊ぬ且ゆ本編ゆい只原文ゆ忠ゆ俗調ふ改し其餘も七八分新意を出さぬあるべかゆゆ四本懸の窮屈ゆり猶骨のゆく折眼目ふ留ゆべきあゆうもゆ備夕霧と柏木の同車ゆ法条い其儘擱ゆて牛車のうしふ騎換させても馬ゆ後脚賞人もあるゆ嗟明友の作と續ゆゆうゆ故人の後馬ゆのらぬ痩我慢勞して功ふき著編ふこそ

于時嘉永七年嘉平月中旬脱稿

同八年孟陬新刊

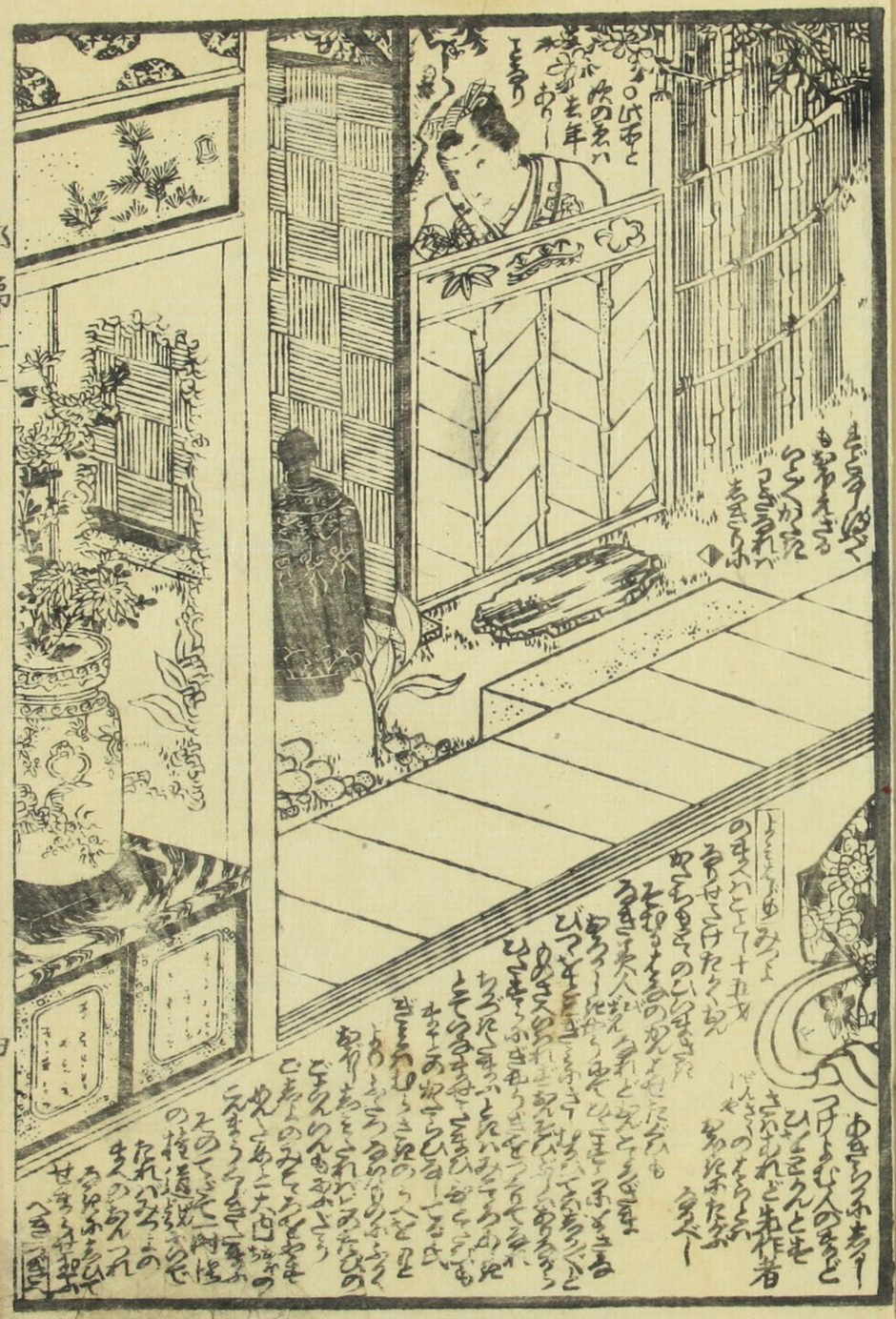
笠亭仙果序

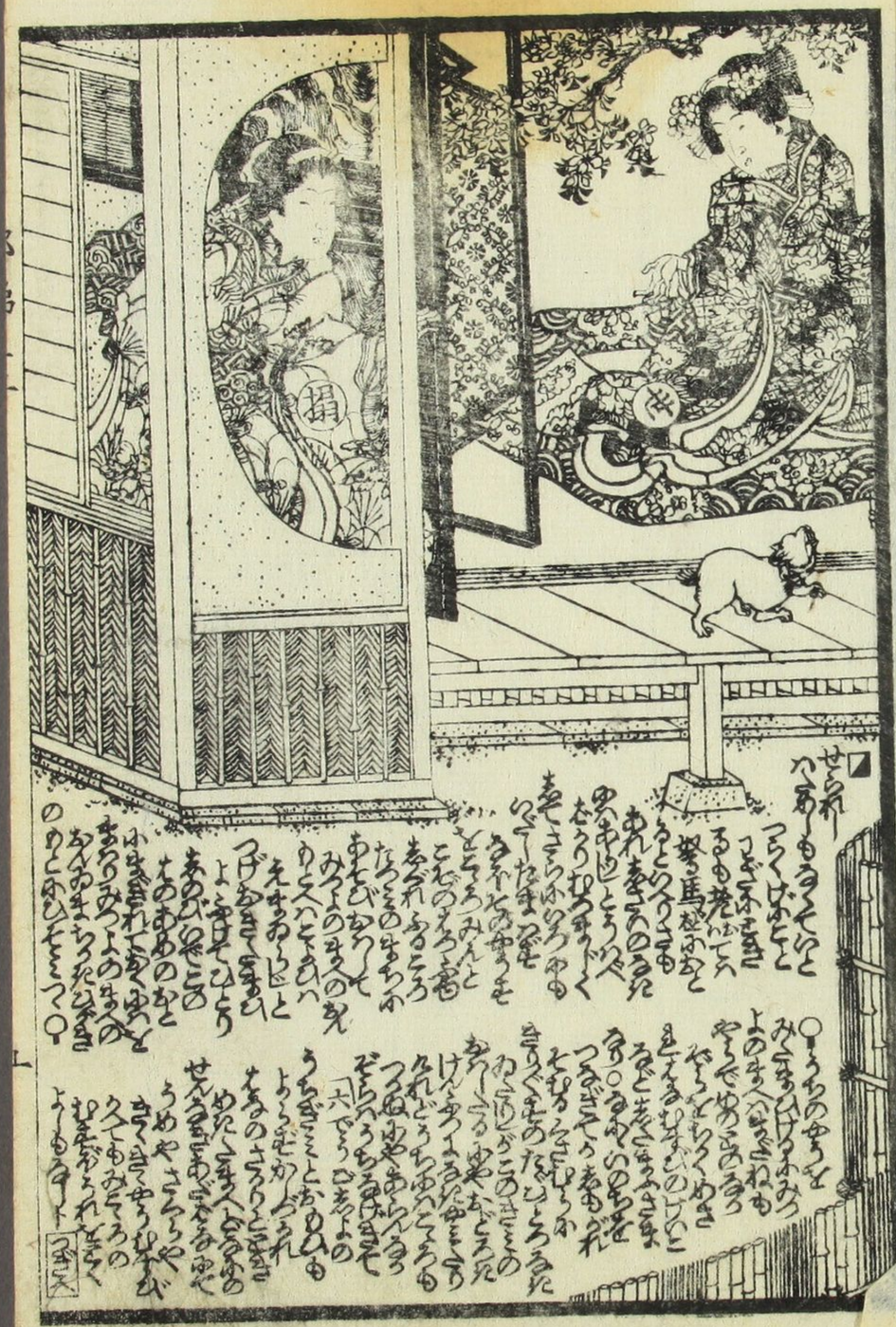
慈照院殿
御在世のむかし
潛て稲荷山お
御參詣あり時
鐘礼の雨お遇
こまやかなるあめ〜の
少女が雨具を
※借さもこころのこゝろ
三津世姫拍之助の
密通の話おつゞ
新お設ることろ四〇
柏木の巻おく
本ゞ曲お分解ゝ
東山義政公

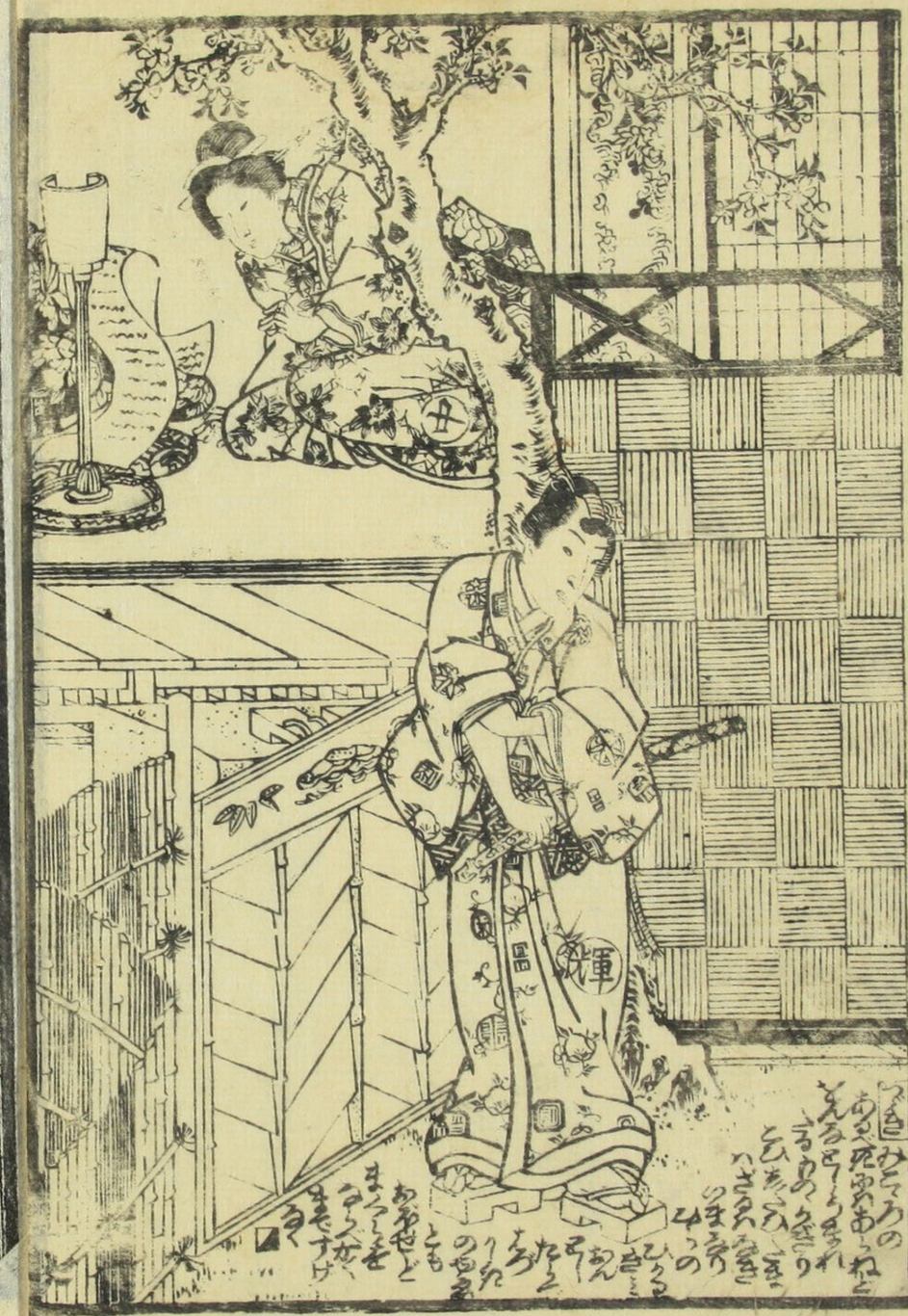
賤女 田中の行穂

熙圓
大僧正
吾山入道
御所初冬
急雨ハ北野
七本松ヲ
尼ヶ崎ハ
稲荷宿
あそばせ
ところ
とも
七年
ゆき

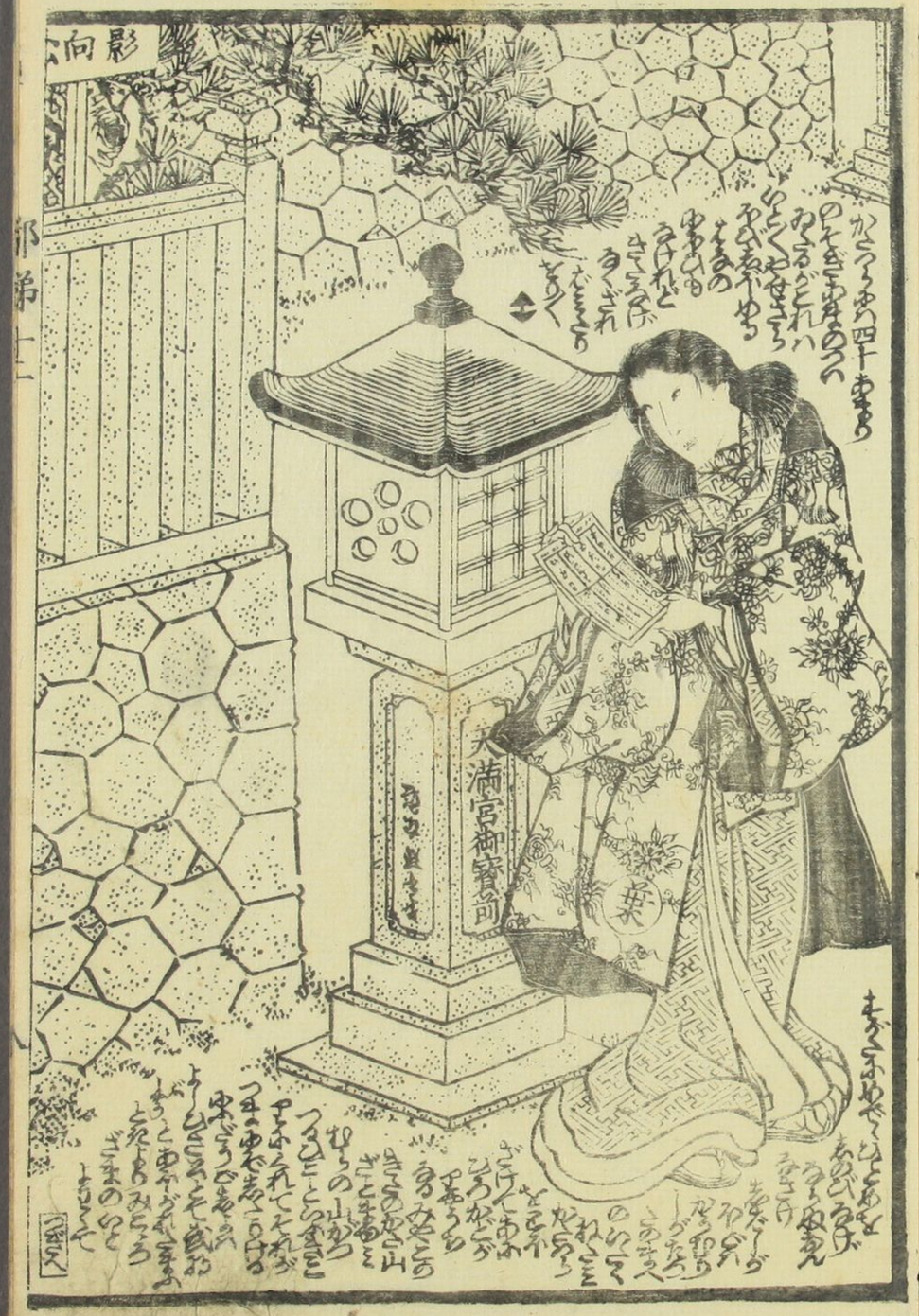
紅葉尼女落葉

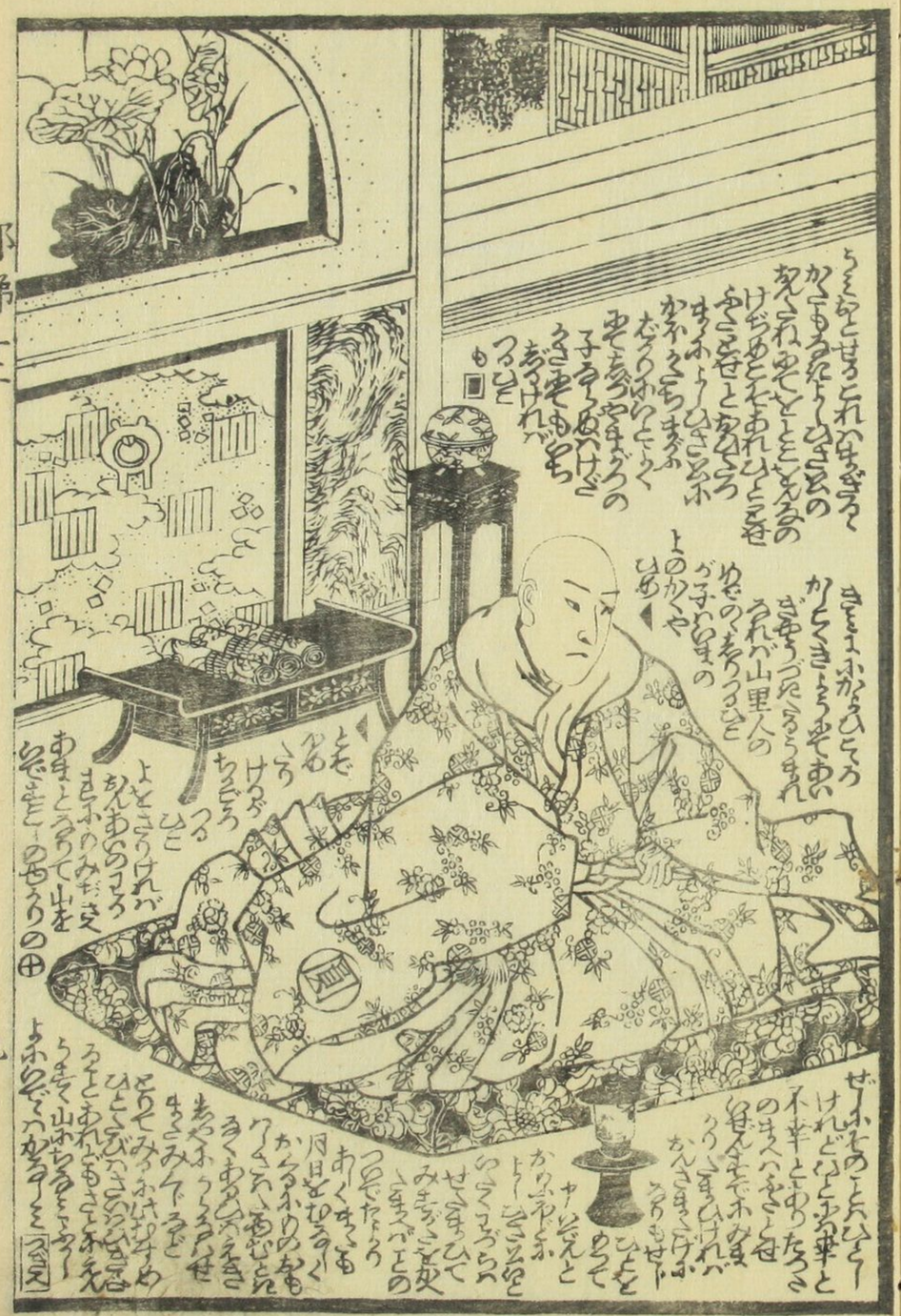






若
尚


影向
天満宮御寶前



笠亭仙果著
梅蝶樓國貞画

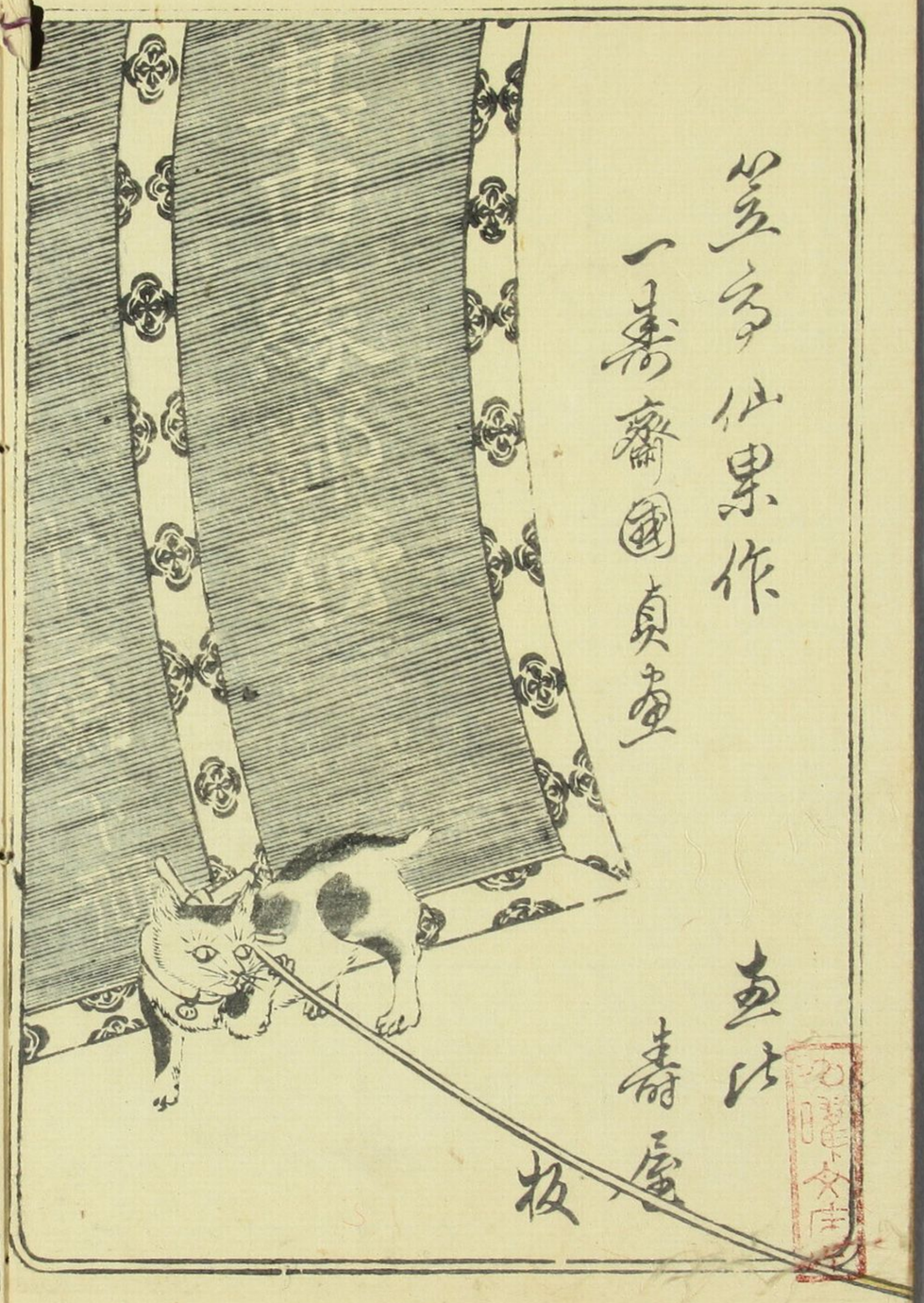
同行名所記

滑稽富士詣

初編上中下 假名垣魯文戯作
毎編三冊 仮大尾 一盃齋芳虎画

[illegible]年ふ當るとかの女人の登山を許されたるとの地なり。同行の尤若男女。士農工商藝人遊客。甲州街道より登りあ[illegible]。直走[illegible]下山[illegible]。東海ふ低す。途中箱根七箇の温泉場巡り。[illegible]言大山詣横賀見物参詣の[illegible]。東都帰着[illegible]。巻中毎編雅俗と混[illegible]。[illegible]場[illegible]。[illegible]。[illegible]。

仮果作
国貞画
十二編下


笠亭仙果作
一寿斎国貞画
東洲
壽屋
板

氏
花

助
兵

柏
女

駒
世

柏
正

稲妻形　二十編　種彦作
怪鼠標　二十一編　國貞画
子七編　二十二編

栗本酒香稿
曽文作
國明画

其由縁鄙傳　二十編　種彦作
十勇士尼子の礎　五　魯文作
六　芳虎画
雨夜鐘四谷雑談　九　魯文作
十　芳虎画
比奈乃都大内譚　三　種彦作
四　芳虎画

地本問屋　江戸てり町　すや

世界ひさの梅が芳すこ編

仙果作
國貞畫

錦昇堂販